



# 桃五だより



No.597

(3月号)

2021.3.1

杉並区立桃井第五小学校

<https://www.suginami-school.ed.jp/momo5shoubg/>

## 下井草どかん公園

校長 川田 忠

「校長先生、公園の名前を子供たちが考えることって、できますか」地域で活動する本校CS委員さんの話が、すべての始まりでした。公園の改修に併せて子供たちが考えた公園名になる。それはそれは、とても魅力的な話と映りました。

全校児童に公園名の募集をかけました。昇降口に投票箱を設置し、ポスターを張り出しました。全校朝会でも、「みんなで考えた公園の名前が、地図に載ることになるんだよ」と話しました。

火がつかしました。「子供たちは、どんな公園にしたいのかな」と話は広がりました。そこで、新しくなる公園のコンセプトを高学年の各学級で話し合いをしてもらい、それを代表委員会でまとめていくことになりました。

学校が地域の公園づくりにかかわる機会など、そうそうある話ではありません。区の広報課にも動いていただき、5年生がどんな公園にしたいかを話し合う場にJ:COMの取材が入りました。

学校の動きに連動して、みどり公園課に協力体制をいただきました。代表委員会でまとめた「どんな公園にしたいか」を看板にして、公園に飾ってもらうことになりました。加えて、公園の木々に樹名板をつけることになり、それも桃五小で引き受けました。

看板づくりは、6年生有志の「カンバンズ」が結成され、放課後の時間を使って作業に当たりました。担任や図工専科が精力的に関わりました。出来上がった看板は、想像以上に見事なものになりました。樹名板は4年生が担当しました。用意してもらった板に、ポスターカラーを使って色鮮やかな樹名板を仕上げてくださいました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対応で、いつもの年とは違う一年になりました。その中で、桃五小の子供たちが、改修される地域の公園に深く関わられたのは、本当に幸せなことでした。

学校はこれまで、地域の皆さんにたくさんの支援を受けてきました。学校行事やPTAイベントがあればお手伝いをしていただき、学習ではお店や公的機関に訪問をさせてもらったり、ゲストティーチャーとして授業に加わっていただいたりしてきました。

桃五小の子供たちのために、地域の皆さんの対応はいつも温かでした。皆さんからの応援を、受け続けてきたのです。そんな桃五小の地域に対して、学校だって地域に役立つことがあるだろうと考えていました。これからは、学校と地域が双方向に関わるように進化していくことが、めざす姿ではないか。そう考えていたところに実現した公園づくりへの関わりでした。

みんなで考えた公園名は、「下井草どかん公園」に決定しました。2月20日に予定していた開園式は、緊急事態宣言の延長により、3月20日に延期されました。開園式の中で、子供たちが作った看板や樹名板が披露されます。そして、この間の子供たちの活動や公園の様子は、杉並区広報番組「すぎなみスタイル」として4月15日より放映される予定です。

待ち遠しい「下井草どかん公園」の開園です。この公園は、地域への愛着が感じられる憩いの場となっていくことでしょう。そして、学校と地域と行政が一体となって創り上げた公園として、子供たちの記憶に残る公園になっていくと思います。

### 3月の生活指導目標 1年間のまとめをしよう

3学期も残りわずかとなりました。「整理整頓」「後始末」といった片付ける習慣をしっかりと身に付けることはできたでしょうか。片付けをきちんとすることが学習や生活の向上につながり、気持ちのよい生活を送ることにつながるという経験を、少しずつ積み重ねさせていきたいものです。

3月は1年間のまとめの月です。ご家庭でも1年間のできるようになったことを振り返ってみてください。